

自立と共生！

たくましい日本！

No. 194号

民主党 中川正春の

## 永田町かわら版

2003年6月20日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail [g03063@shugiin.go.jp](mailto:g03063@shugiin.go.jp)

## ○地方への税源移譲は、本物か

約20兆円の補助金、負担金のうち16兆円を地方の財源に置き換え、4兆円(2割)分の補助金はカットして地方のリストラで克服するように。これが小泉総理の出した地方への財源移転(三位一体)論議の裁定でした。

これに対して、私たち民主党は、補助金や負担金は全廃、地方交付税と合わせて、個別のひも付きでない調整交付金にしてしまう。そのうち15兆円分を国税から地方税に置き換えてはどうかと従来から主張しています。

小泉案では地方予算の中から4兆円分が確実に減額されます。本来であれば全額地方に流すべき資金を、国の将来の借金返済のために一部国の取り分として残して欲しいという、財務省の言い分が通ったわけです。特に国からの福祉関連の補助金が切れて、その負担が100%地方に回るシナリオになれば、合併やリストラで捻出する資金だけでは到底賄えないことは目に見えています。国の想定は、本来国が増税する責任のある分野を地方の負担に移して、地方自治体が自ら増税をしなければならない仕組みに変える魂胆だとも考えられる訳です。だから、地方にとって税財源の移譲は手放しでは喜べないのです。

これまで、公共事業を中心に無責任に歳出を膨らまして700兆円を超える借金を重ねたのは国です。ここは、税財源は4兆円削らずに100%地方に移し、国は、新たな税負担を国民に対して国の責任で正直に説明して責任をとる。このことが大切です。

## ○国会の駆け引きはつらい

## 審議拒否の是非

「また国会をストップさせて、あかんやんか。」と、

ところが、「ご意見番」は、納得してくれません。「もし、民主党の言い分に理があるとすれば、それは、国会の議論の中で正々堂々主張したらいい。こんな事で、国会をとめていれば、国民はウンザリする。」なかなか手ごわいのです。

国会が紛糾してストップするたびに、民主党の中でも、賛否両論、このことが話し合われます。ストップしなければ、マスコミも取り上げることなく、国民が注目してくれません。しかし、一方で、ストライキはよくないという世論に答える必要もある。

今回は、正常化していく条件として、野党は小泉総理出席のもとに予算委員会の開催を求めます。現下の経済状況は日々深刻なことになってきているという認識がある。イラク問題という話で皆の目をそらすことなく、一番大事な経済問題を一義的に議論すべきだと言う主張です。来週24日に本会議が再開され、23日には予算委員会も入る事になるような話し合いがなされたようです。

## ○サラリーマンと丸ビル

小津安二郎監督の生誕100年記念映画フェスティバルで、彼の代表作「早春」を見てきました。昭和30年代の日本の情景が、あの頃のサラリーマンの生活実感と悲哀の中で、抱きしめたくなるくらい懐かしく描かれた作品です。

田舎から出てきて東京の丸ビルに通勤することにあこがれたサラリーマン達が、(今から見ると)たこ部屋のような環境に机をびっしりと並べての仕事風景。さらさらとペンが走る音。各部屋に一台の黒電話が鳴るたびに、呼び出されて電話口。

この間、新しく36階建ての高層ビルになった「丸ビル」に行く機会がありました。「高貴な人だけが宮殿のような場所で使う大理石のトイレが、いとも簡単に大衆化(?)されて、ここにある。」と、フランスからきたビジネスマンが驚いたと言います。IT機器で武装されて、ビジネスのあり方も大きく変わりました。しか

地元のご意見番から、電話がかかりました。国民の声の第一報は、厳しい支持者の皆さんなのです。

「小泉さんが、自分の総裁選挙を有利に運ぶために、イラクへの自衛隊派遣にかこつけて延長しなくてもよい国会を無理やり延長しようということだ。野党がこんなバカな話に対抗するには、実力行使で審議拒否することが、逆にていねいな論議に結び付く。」このことを説明しました。

し、夕食をともにしたこのビルで働く友人の口から日常が語られる、その中味はというと、昭和30年代がタイムスリップしてきました。

人間の幸せ、日本人のライフスタイル。こんなところまで遡って、政治のあり方を考える時です。